

第1回「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」結果概要

- 日 時 平成25年11月21日（木）午後3時30分～4時50分
- 場 所 宇都宮市役所本庁（16階）16中会議室
- 出席者 別紙参照
- 内 容
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 委員会の設置について
 - 4 議題
 - (1) 東西基幹公共交通（LRT）の取組状況等について
 - (2) 需要予測について
 - (3) 従業者アンケート調査の実施について
 - 5 その他
 - 6 閉会

【主な発言の要旨】

2 あいさつ

【宇都宮市長 佐藤栄一】

- ・ 本市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を促進していくためには、利便性の高い公共交通ネットワークの構築が不可欠であり、これまで、郊外部における地域内交通の導入や路線バスの新設に向けた社会実験など、公共交通の充実・強化に取り組んできたところである。
- ・ LRTについては、公共交通ネットワークの東西基幹公共交通として、南北の鉄道とともに、重要な役割を担うものであり、これまで早期整備に向けた検討を進めてきたところである。
- ・ このような中、10月に芳賀町からLRT延伸の要望をいただいたところであり、市としては、この要望を踏まえ、今後、芳賀町とともに、延伸区間含めた検討をしていきたいと考え、このたび、「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」を設置させていただいたところである。
- ・ LRT事業は、新たに軌道を整備するものであり、課題があるが関係機関の皆様からのアドバイスをいただきながら、検討を進めていきたいと考えており、ご協力をお願いする。

3 委員会の設置について

【事務局】

- ・ 資料1説明
- ・ 委員長選出及び副委員長指名
(設置要綱に基づき、森本委員を委員長に選出、岸井委員を副委員長に指名)

【森本委員長 あいさつ】

- ・ 東西基幹公共交通として検討しているLRTについては、約20年近く議論してきた。東西基幹公共交通は、宇都宮市のみならず、県央エリアの将来の発展のために極めて重要なものである。この検討委員会は、LRTの導入に向けた具体的な議論、特に事業化に向けた議論をしていく場であり、公平で効率的な議事進行に努めていく。皆様のご協力をお願いする。

4 議題

(1) 東西基幹公共交通（L R T）の取組状況等について

【事務局】

- ・ 資料2説明

【森本委員長】

- ・ 今回、この検討委員会は「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」という形で発足しており、芳賀町から要望書をいただいているという経緯がある。経緯についても、取り組み状況の1つであるため、補足説明をお願いします。

【坪川委員】

- ・ 芳賀町は、宇都宮市の東側に位置する町で、公共交通機関としてはバスが走っている。芳賀町としても、芳賀町住民としても、公共交通機関の整備について強い要望を持っている。そういった中で、宇都宮市がL R Tを進めていく計画があると聞き、この機会を生かすため、議会に了承のうえ、10月23日に芳賀町長と町議会議長の連名にて、宇都宮市長と市議会議長に要望書を提出したところである。
- ・ 芳賀町には、芳賀工業団地、芳賀・高根沢工業団地が立地している。ここには、代表的な企業として本田技術研究所という会社があり、従業員数が膨大である。その半分以上が宇都宮市から通勤されており、ほとんどが自らの車で通勤している。交通渋滞緩和のため、かなりの金額を出して企業バスを運行させている。
- ・ L R Tを利用することで、より交通渋滞の緩和が期待できる。そのための施策としては、L R Tに結節するバスネットワークの構築等が必要である。L R Tの利用者が増加することで、渋滞緩和につながると考え、芳賀町にL R Tを延伸してほしいと要望したところである。
- ・ 茂木まで延伸という話もあるが、まずは、芳賀工業団地、芳賀・高根沢工業団地までの延伸を考えている。

【森本委員長】

- ・ 要望書を受けた宇都宮市の考えについて説明をお願いします。

【荒川委員】

- ・ 10月に芳賀町から宇都宮市、宇都宮市議会として要望を受け、大きくは3つの観点から、大変ありがたいご提案だと受け止めている。
- ・ 1点目は、栃木県の県央地域における東西方向の基幹的な公共交通になる。これまでは宇都宮市として検討してきたが、隣接する芳賀町と一緒に検討していただけるため、市域を越えて、広域の公共交通という位置づけになったことである。
- ・ 2点目は、芳賀、芳賀・高根沢工業団地の従業員の方の多くは宇都宮市民である。宇都宮市としても、芳賀町と一緒に、大規模な工業団地に就労している宇都宮市民のために、職場への通勤環境を整えるという意味から不可欠な事業であると考えている。
- ・ 3点目は、需要の面から見ると、宇都宮市にある清原工業団地、平出工業団地、宇都宮テクノポリスセンター地区に加え、芳賀、芳賀・高根沢の工業団地の需要も含めて、L R Tの需要として見込めることは、採算性の面で大きく貢献するものと考えられる。

(2) 需要予測について

【事務局】

- ・ **資料3**, **資料4**説明

【内野委員】

- ・ 大学の調査で「1大学1短大」と書いてあるが、具体的にどこの大学か。

【事務局】

- ・ 作新学院大学と短大である。

【内野委員】

- ・ 宇都宮大学は入っていないのか。

【事務局】

- ・ 今回の調査には入っていない。

【森本委員長】

- ・ 前回までのLRTの需要推計と比べた場合、例えば沿線住民の利用者とか、今回の推計の中には入っていないものについて説明を願う。

【事務局】

- ・ **資料4**, 3ページの年間収入のところに、「今後調査予定」と記載しているが、ベルモールの従業者や沿線地域の住民の方々の利用は見込んでいない。また、沿線の大学、高校の学生や鉄道端末の一部については、今回の見込みに含まれていない。

【森本委員長】

- ・ その分がプラスアルファになるという事で、今後調査をするという理解でよいか。

【事務局】

- ・ その通りである。

【荒川委員】

- ・ 補足すると、**資料4**, 3ページのところの年間収入の表中に記載しているのは、最低限の需要見込みである。
- ・ 最低限という意味は、本来ならばもっと広域に需要予測をする必要がある。沿線住民、事業所に調査を実施する必要があるが、相当時間と費用がかかるため、来年度以降に実施する予定である。
- ・ 今回の宇都宮駅東区間は、少し一般の市街地と異なっており、鬼怒川の左岸に大きな従業地、事業所が立地している。今回、この需要予測をしたのは、中心部から工業団地の方に向かう通勤・通学需要を算出している。鬼怒川左岸側の清原地区の住民等が、JR宇都宮駅に向かう需要は全く入っていないので、空で車両を運行しているという形での需要予測となっている。
- ・ 沿線には、ベルモールや宇都宮テクノポリスセンター地区内の商業施設等がある。中心部からそういった施設へ向かう需要、平出地区のエリア、清原、芳賀の住民、茂木町からLRTに乗り換えて市の中心部に向かって通勤・通学している需要は見込んでいない。

【森本委員長】

- ・ かなりシビアに積み上げた結果であると理解している。

(3) 従業者アンケート調査の実施について

【事務局】

- ・ **資料5**説明

【森本委員長】

- ・ この従業者アンケート調査の詳細は次回との事であるが、実施時期については、いつ頃を予定しているのか。

【事務局】

- ・ 次回、調査の詳細を説明し、年明けの1月以降に実施する予定である。

【森本委員長】

- ・ 年明けに企業の方々にご協力をお願いする事になるので、事前に調査を実施することをお伝えしておくことがよいと考えられる。

【行政アドバイザー】

- ・ 今回は通勤・通学で使われる方を想定していると思うが、それ以外の調査は、今後どのように考えているのか。

【事務局】

- ・ **資料3**の「需要予測について」に記載してあるが、3段階で調査を進めていきたいと考えている。3番目の「交通実態調査」において、全体区間、将来的な延伸の可能性を見据えながら、都市圏全体の交通実態調査を実施したいと考えている。

【森本委員長】

- ・ 都市圏というのは、宇都宮都市圏、80万人と言われているが、その都市圏と同じと考えてよいか。

【事務局】

- ・ その通りである。

【森本委員長】

- ・ 市町村合併を考慮し、前回のパーソントリップのエリアよりは広い範囲で議論するという理解でよいか。

【事務局】

- ・ 前回のパーソントリップ調査の4市6町ベースに、対象とする地域をどうするか、検討しているところである。

【森本委員長】

- ・ 今年の調査と次年度以降に実施するパーソントリップ調査のデータの互換性が重要である。今回はそういった調査設計の話になると思うが、パーソントリップ調査を前提にした場合、調査区域、最低限の調査区分の整合性について次回検討していただきたい。

【荒川委員】

- ・ 来年度調査をするが、鉄道施設や交通結節点の設計においては、ピーク時の交通がどの程度さばけるかという事が重要である。今回は企業に対しヒアリングしているが、東側区間については、朝夕の通勤・通学のラッシュ時を対象として、今年度内に実施する従業者アンケートをベースに施設の設計等を検討したいと考えている。

- ・ 清原・芳賀方面では、バルーン大会、マラソン、花火大会。茂木では、「ツインリンクもてぎ」における各種イベントがある。今回の需要見込みでは、年1回行われるプロ野球の公式戦しか見込んでいないが、高校野球等の需要が見込める。
- ・ グリーンスタジアムでは1万5,000人定員であるため、一気にこれらの需要が発生すると、場合によっては通勤・通学のピークよりも多くなることも考えられる。ピーク需要、朝夕のラッシュといったものをベースに施設設計を実施しながら、来年実施する交通実態調査等から、よりきめ細かい運行形態、事業採算の見込みを検討したいと考えている。

【森本委員長】

- ・ 需要・採算性については、この検討委員会として十分に精緻な分析をし、信頼性のあるものにしていきたい。

【荒川委員】

- ・ 「参考図」について説明させていただきたい。この委員会では、宇都宮市のJR宇都宮駅東口から、芳賀、または芳賀・高根沢工業団地の区間を検討対象としたいと考えているが、「将来延伸検討区間」についても検討の対象としていただきたいと考えている。
- ・ 「参考図」に「将来延伸検討区間」として示しているが、東方面では芳賀町方面、西方面では、東武宇都宮線、大谷方面に延伸している。これはこの検討会の中で、延伸の是非を議論するのではない。JR宇都宮駅東口から芳賀工業団地までの区間を検討するにあたり、将来延伸する可能性を残しておくべきかどうかに関して、検討委員会の中で、ご意見をいただきたいと考えている。
- ・ 具体的には、今回設計するLRTの軌道幅、車両幅、電圧など、将来的な既存の鉄道への乗り入れを考えると、整合性を担保する必要がある。そのような可能性を残すのかどうか、可能性を残すということになると、コストが高くなる事が懸念される。このため、建設費、整備費との兼ね合いを考慮しながら、東口から芳賀までの検討を進めたいと考えている。

【行政アドバイザー】

- ・ JR宇都宮駅東口を確認してきたが、バスレーンが1番から6番まであり、1番、2番が企業の通勤バスで、従業員専用となっていた。キャノンのバスを見ると、5分間隔で運行している。現時点の需要量と、LRTによるピーク時の需要量の対応というのは、今、どのように把握されているのか。

【事務局】

- ・ 企業バスの全利用者数は、資料4の「通勤バス利用者」、1,934人である。企業バスのピーク時は、1時間当たり795人である。LRTでは、1時間当たり1,200人の輸送が可能と考えている。(補足：20m車両、定員80名の最大輸送力を150%とし120名見込み、10本/時を想定した場合)

【森本委員長】

- ・ ピーク時に対応できるということである。

【行政アドバイザー】

- ・ LRTについては、富山市で実際に運行しており、運行上の課題や問題点があると思うが、そのあたりのヒアリングをしているのか。また、問題点については、どのように対応していくのか。

- ・ 2時間を超えて通勤する人であれば、「電車は定時性があってよい」となるが、20分、30分程度の移動の人であれば、駅でLRTに乗り換えて、工業団地まで行くという場合でも需要が見込めるのか。実際に計画が動きだしたら止まらないと思うので、その辺もよく吟味された方がよいと考える。

【事務局】

- ・ 本市東部地域では、朝夕、工業団地へ通う方々で渋滞が発生している。ヒアリングの中でも、駅から事業所まで、40分～50分かかると聞いている。
- ・ 今回ヒアリングした企業、大学からは、LRTが導入されれば、ぜひ利用したいという話を聞いている。企業によっては、車の利用者が公共交通に転換すれば、駐車場のスペースがより生産活動に活用できるといった意見も聞いている。
- ・ また、停留場からある程度近いとか、工業団地内をシャトルバスのようなものが走っていれば、利用率が高まるのではないかとという声も聞いている。
- ・ これらの意見を踏まえ、導入空間・ルートを検討しているが、速達性、利便性を確保するといった検討を今後詳細に進めていきたいと考えている。

【森本委員長】

- ・ 需要予測においては、今回は転換率曲線といった非常にシンプルな形を取るような形になっているが、次年度以降、パーソントリップ調査を実施し、居住地と目的地、乗り換え場所、乗り換え抵抗等々を踏まえて、最も効率的な手段を人は選ぶというような理論を基に精密な分析をしていくということなので、近いから乗る、乗らないというのも勘案した中で、需要予測を実施すると理解している。
- ・ 富山市とは非常に密接に、事務局レベルでも情報交流をしていると聞いている。また、本日は、欠席であるが富山市の元助役の望月委員からも具体的なアドバイスがあると期待している。

5 その他

【事務局】

- ・ 第2回検討委員会については、平成25年12月17日(火)を予定している。改めて、通知させていただくので、よろしく願いたい。

【森本委員長】

- ・ 以上で本日の委員会を閉じさせていただく。

以上

平成25年度 第1回 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」 出席者名簿

(敬称略)

区 分	所属/職名	氏 名	出欠	代理者 職 名	代理者氏名
有識者委員	宇都宮大学大学院教授	森本 章倫	○		
	日本大学教授	岸井 隆幸	欠席		
	京都大学客員教授	望月 明彦	欠席		
	公認会計士	内野 直忠	○		
行政委員	宇都宮市副市長	荒川 辰雄	○		
	芳賀町副町長	坪川 幹雄	○		
行政アドバイザー	国土交通省都市局 街路交通施設課整備室長	河野 俊郎	代理	課長補佐	小路 剛志
	国土交通省関東地方整備局 建政部都市整備課長	能勢 和彦	○		
	国土交通省関東地方整備局 道路部道路計画第二課長	市川 広志	代理	計画係長	植野 崇直
	国土交通省関東地方整備局 宇都宮国道事務所長	戸倉 健司	代理	副所長	清水 信男
	国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所長	長野 拓朗	○		
	国土交通省関東運輸局 企画観光部交通企画課長	榎本 考暁	○		
	国土交通省関東運輸局 鉄道部計画課長	岩田 信晴	代理	係長	柴田 元衛
	栃木県土整備部 交通政策課長	福田 晴康	○		
	栃木県土整備部 道路保全課長	横嶋 利光	○		
	栃木県警察本部交通部 交通規制課長	飯嶋 守	○		
オブザーバー	鹿沼市総務部企画課長	小太刀 亨	欠席		
	真岡市総務部企画課長	添野 郁	代理	課長補佐	中里 好樹
	上三川町企画課長	隅内 久雄	○		
	益子町総務部企画課長	大塚 隆彦	○		
	茂木町企画課長	星 光徳	○		
	市貝町企画振興課長	神野 正明	代理	係長	小林 敏章
	壬生町総務部総合政策課長	出井 透	○		
	高根沢町総務企画部地域安全課	渡邊 登	○		
	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社総務部企画室長	中村 透	○		
	東武鉄道株式会社 経営企画部長	横田 芳美	○		
	関東自動車株式会社 取締役専務執行役員	吉田 元	○		
	東野交通株式会社 取締役業務部長	松山 一男	○		
	ジェイアールバス関東株式会社 宇都宮支店長	町田 慎吾	○		
栃木県タクシー協会 専務理事	鉢村 敏雄	○			